

都市部から生活の拠点を移した人を、自治体が「地域おこし協力隊」として委嘱。隊員はおおむね3年以下の活動期間に、地域ブランドや地域商品の開発・販売・PRなどの地域おこしの支援や、農林水産業への従事など地域協力活動を実施し、その地域への定住・定着を図る取り組み。

地域おこし協力隊って？

☎ 移住定住促進地域おこし協力隊については観光政策課 ☎027-257-0675
 地域づくり分野地域おこし協力隊については市民協働課 ☎027-210-2196

文：ワカモノ記者・勅使河原花菜、茂木春香

今回は本市で活動している地域おこし協力隊のうち、移住定住促進地域おこし協力隊・上原裕介さん、地域づくり分野地域おこし協力隊・パーベル フョードロフさんに取り組みなどについて話を聞きました。



Q1 なぜ本市の地域おこし協力隊に？

A1 東京に住んでいましたが、一度周りを見てみたいと考えようになりました。そんな時にテレビで移住コンシェルジュ・鈴木正知さんのインタビューを目にし、前橋市はきれいなところだと感じ、興味を持ちました。そこからインタビューなどを経て、現在に至ります。

Q2 地域おこし協力隊としての活動内容は？

A2 主に地域貢献です。地域団体への活動支援や農業事業者の手伝い、移住者交流会、自治会の会議への参加などを実施しており、都内で開催される移住相談会などで実体験を通じたアドバイスができるように取り組んでいます。また、赤城山石井ハウスに住みながら管理もしています。



プロフィール
 移住定住促進地域おこし協力隊
 上原裕介さん
出身地 東京都
活動開始時期 昨年6月1日
活動内容 本市への移住定住促進事業に関する事

Q3 二日のおおまかなスケジュールを教えてください。
A3 朝は赤城山石井ハウスの掃除、昼は田んぼや畑などの手伝い、夜は地域おこし協力隊の活動記録のための動画編集などを行っています。移住相談時には、相談対応をしています。

Q4 本市に移住するまでに地方都市に来た経験は？
A4 ほとんどないです。子ども



Q5 本市で好きな場所はありますか？
A5 周囲の田んぼの風景がとても好きです。他には世界の名犬牧場(富士見町石井)や近所にある菓子店などもお気に入りです。

Q6 これからの目標は？
A6 この家を人が集まる場所にしていきたいです。先

赤城山石井ハウス

空き家を活用した懐かしい雰囲気の家屋で、小鳥のさえずりや川のせせらぎを聞きながら、縁側や和室でのんびり過ごすスローライフの体験や移住体験もできます。また、イベントの開催や地域住民・移住者・支援者の交流の場などとして誰でも活用できます。詳しくは問い合わせください。

場 富士見町石井407
問 上原さん ☎070-3174-2045

日、地域の人を招いてお茶会を開催しました。この花壇を使って園芸教室の実施も予定しています。これからもイベントを開催して人が集まる場所を作っていきたいと考えています。



プロフィール
 地域づくり分野地域おこし協力隊
 パーベル フョードロフさん
出身地 ロシア ハバロフスク
活動開始時期 昨年10月3日
活動内容 本市の地域づくりの推進に関する事

Q1 なぜ本市の地域おこし協力隊に？

A1 東京でテレビ制作に関わる仕事をしていましたが、コロナ禍や戦争の影響を受けて仕事が減少してしまいました。その時、友人から地域おこし協力隊を紹介されたことがきっかけで興味を持ち、山本市長と実際に言葉交わしていく中で、前橋



アートペイントの実施予定地

で新しい挑戦をすることを決意しました。

Q2 地域おこし協力隊としての活動内容は？
A2 これまで、ウクライナから避難してきた学生の支援やロシアのサンタクロース衣装を着て保育園などを訪問しプレゼントを渡したり、公民館でポリシチ料理教室を開催したりと地域活動を実施しました。今は「MA More」前橋愛プロジェクトを中心に活動しています。このプロジェクトでは、市の中心部の建物に国際交流のシンボルとなるアートペイントを

施し、カラフルで開放的な景観をつくることを目指しています。また、まちをカラフルにするだけでなく、約7,000人いる本市在住外国人と地域住民の交流や、市内の若者同士のつながりを生み出し、市に対する愛を育むという意味も込められています。参加型のプロジェクトなので、前橋を活気づけるきっかけにしたいです。

Q3 本市で好きな場所はありますか？
A3 自然が豊かなところですね。赤城山の大自然やぐんまフラワーパークが特に気に入っているスポット。静かな大沼では、ゆっくりと座って地域おこしの企画を考えます。呑龍横丁や臨江閣も魅力的！

Q4 本市に来てどう感じましたか？
A4 市の中心部にも関わらず放置された空き家が多いことにショックを受けました。そこで思いついたのが「MA more」



編集後記

悪いところを批判するだけでなく、デメリットをメリットに変えるような活動がしたいという姿がとても印象的で、ずっと前橋市に住んでいる私にはなかった視点を学ぶことができ、パーベルさんの溢れ出る熱意を感じました。そして、MAmoreプロジェクトが、カラフルなアートと多文化共生を通じて前橋市に架けてくれる虹へ期待が膨らみました！

茂木

前橋愛プロジェクトです。これが盛り上がり、空き家を活用するための新たな活動につなげられるかもしれないと思います。

Q5 これからの目標は？
A5 まずは、大プロジェクトである「MA more」前橋愛を成功させることです。このプロジェクトで、日本国内だけでなく世界各地から見に来てもらえるようなストリートアートを制作したいです。

私は生まれも育ちも前橋市なのですが、このような地域活性化のための取り組みをしていることを知らなかったため、今回の取材は貴重な体験でした。インタビューでも、今後この赤城山石井ハウスでさまざまなイベントを開催していきたいという話があったので、機会があれば私も参加してみたいです。

勅使河原